

2012 支局 この1年

4

石井・大野 真味

佐那河内村の休耕地と
なっている棚田などで古
代米の栽培や養蜂をして
村の活性化につなげる試
みが相次いで始まった。
それぞれの取り組みは村
のほか、村外の企業や個
人が主体。

村おこしに記事の注ぐ

佐那河内・棚田活用事業

住民と一緒
に汗をか
き、徳島県

で唯一の村をもり立てて
米を栽培する「佐那河内
村古代米活用プロジェクト」
竹で田植え。赤米と黒米

「普通より祭りも地域
もにぎやかになって良か
った」と、一連の取り組
みを実施。

「村おこしの種」
はやがて花を咲かせ、き
っと大きな実を結ぶだろ
う。

＝随時掲載

ト」。2012年2月、の苗を手作業で植えた。採取した蜂蜜の一部は、
有機栽培に使うミミズふ 同社や元社長がプロシエ 地元住民に配った。
ん士を製造販売する「豊 クト支援のために立ち上 という住民からの申し出
徳」（小松島市）の元社 げた「みむら」（徳島 もあるという。
長らが、藩主への献上米 市）と、村の関係者ら約 12年4月には、徳島市
を生産していた佐那河内 60人が参加。棚田と子ど の農家ら17人でつくる
村に目をつけて役場に もや大の歓声が響い 「みつばち倶楽部」ムラ
古代米栽培を提案したこ た。 づくり支援し隊」が養
とがきっかけで始まっ 刈り取り作業にも地域 蜂を開始。休耕地の増加
た。 の子たちが参加し、約 で山村の風景が失われつ
みを歓迎。役場には空い 採取した蜂蜜の一部は、
ている棚田を提供したい 地元住民に配った。
レンゲのほかにも赤ソ バや黒豆、米を栽培。今
後は、住民や子どもたち
を対象にしたイベントを
開き、育てた作物を使っ
た特産品開発などにも取
り組んでいくという。
どちらの試みも「少子
高齢化が進む村の景観保
全や活性化につなげた
い」という役場職員が深
く関わる。最初は離れた
所から見る立場にいた住
民も協力し、少しずつ広
がりを見せている。育ち
始めた「村おこしの種」
はやがて花を咲かせ、き
っと大きな実を結ぶだろ
う。

苗を育て 2005年を収穫。地元
つあるため、休耕地で栽
培した植物から蜜を取る
るなどして 神社の例祭では収穫を祝
準備を進 う踊りを奉納した。住民 養蜂に着目した。村の支
め、6月には「普段より祭りも地域
もにぎやかになって良か
った」と、一連の取り組
みを実施。

準備を進 う踊りを奉納した。住民 養蜂に着目した。村の支
め、6月には「普段より祭りも地域
もにぎやかになって良か
った」と、一連の取り組
みを実施。

＝随時掲載